

1 利用状況の傾向

(1) 初めて利用した時期や利用を勧めた人について

初めて当所を利用した時期については、図1のように、「9月～12月」が63人で最も多かった。男女別においても、同様の傾向が見られた。

当所の利用を勧めた人については、図2～4のように、全体としては、「学校の先生」が29.2%で最も多く、次いで「家族」、その次に「適応教室」が多い結果となっている。男女別では、男性は「家族」が28.2%と最も多く、女性は「学校の先生」が32.1%で最も多かった。

初めて当所を利用した時期が9月～12月（2学期）に多いことは、毎年度の初入所者の利用時期にも同様の傾向が見られる。この傾向は、実際の利用事例から見ても、学校や保護者等が、児童生徒の1学期の出席状況や夏季休業中の生活、2学期当初の出席状況や体育祭への参加状況等を踏まえ、当所の利用をきっかけとして学校復帰を図ろうとすることによるものと言える。当所利用を勧めた人の中で、「学校の先生」が最も多く、次にほぼ同率で「家族」、「適応教室」と続いていることも、そうした動きの表れであると言える。

こうしたことは、当所が従来、各種研修会や「地域やまびこ教室」、機関紙の配付等を通して、学校及び適応教室との連携を深めていることや、「地域やまびこ教室」における保護者交流会や「やまびこ親の会」等、保護者との教育相談に取り組んでいることと結びついていると考えられる。

今後は、当所利用を勧めた人の中の「相談員、SC」の割合が10.9%を占めていることを踏まえ、相談員やSCを対象とした当所見学会等、当所の理解を促す具体的な働きかけも行っていく必要があるのではないかと考える。

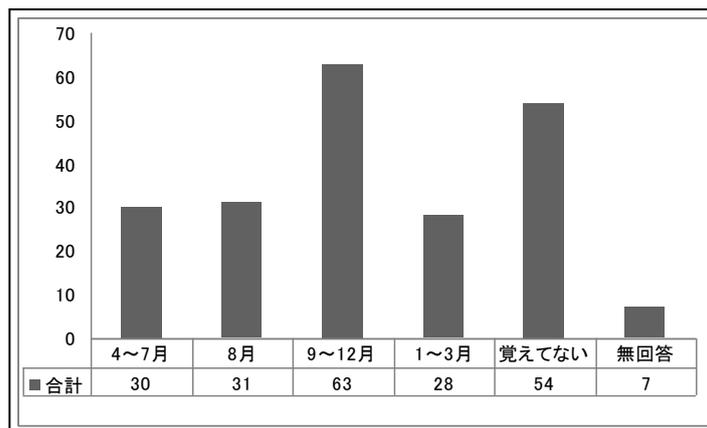


図1 但馬やまびこの郷を初めて利用した時期 (n=209)

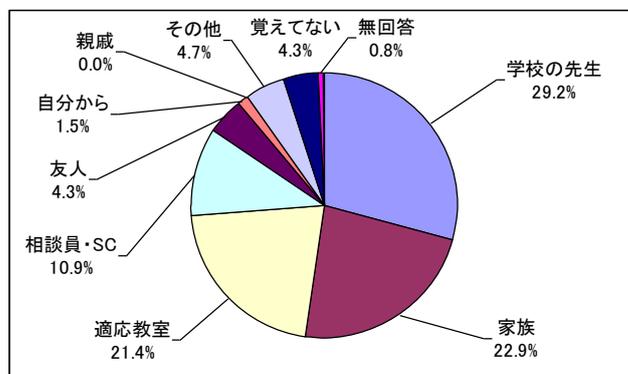


図2 利用を勧めてくれた人 (n=209)

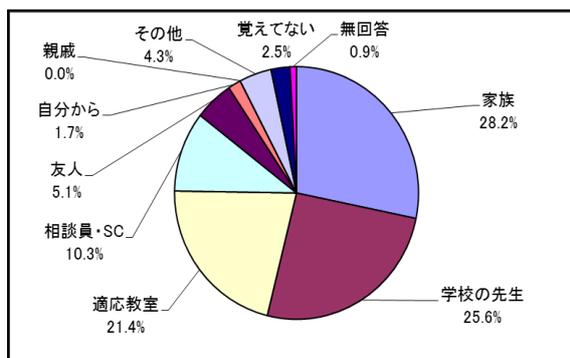


図3 利用を勧めてくれた人(男性) (n=90)

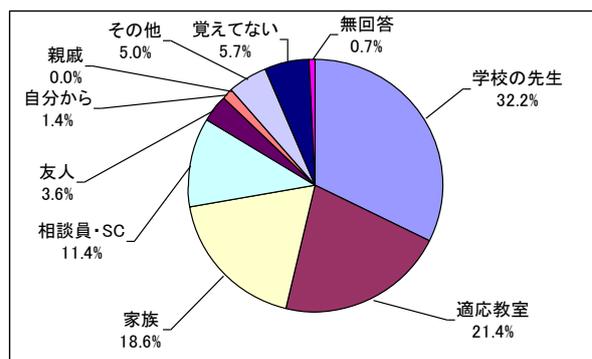


図4 利用を勧めてくれた人(女性) (n=119)

(2) 利用回数について

図5から、利用回数が「1回」の者が85人で最も多かった。男女別においても、同様の傾向が見られた。また、「3回以上」参加している者は79人であった。

当所では、2回以上の利用者を「再入所者」とし、その年度に初めて利用する「初入所者」とともに「利用状況」としてまとめているが、本調査においても、再入所者が全体の55.9% (117人) を占めており、この割合については、毎年度の再入所者の割合とほぼ同様の傾向が見られた。

ただ、回答者の不登校の期間や当時に利用した時期に違いはあるとは言え、1回だけの利用が多いことは、当所を複数回利用して得られる効果とを考え合わせると注目すべき結果であり、その理由について分析することは、当所の今後の働きかけ等の改善に活かす上で必要なことであると考えられる。

その理由の分析については、当所が毎年度実施している「利用者追跡調査」(前年度の利用者の学校や保護者を対象)においても可能である。また、今後において、本調査の追加調査としてインタビュー調査を行い、但馬やまびこの郷を3回以上した者に複数回利用した理由を具体的に尋ねるだけでなく、利用回数が1回の者にその理由を聞くことを通して、それぞれの共通点や違いを明らかにすることにより、子どもたちが継続して但馬やまびこの郷を利用していけるような支援の在り方を検討する必要がある。

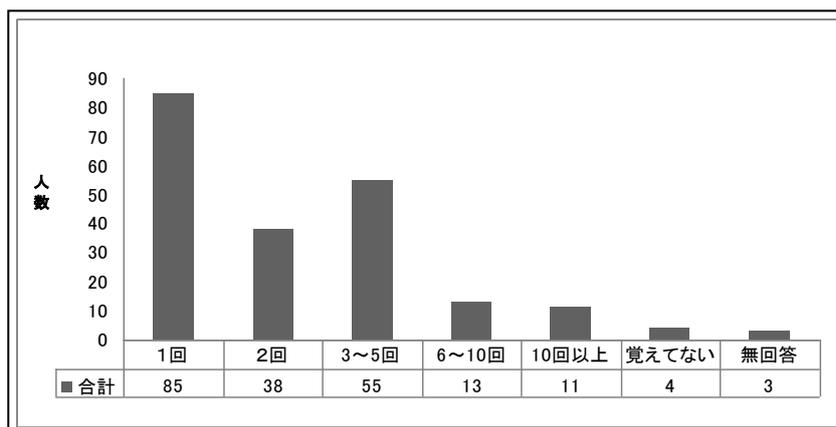


図5 但馬やまびこの郷を利用した回数 (n=209)

2 当所での活動や生活をふり返って

(1) 一番心に残っている活動について

全体として「やまびこタイム」が18.6%と最も多く、次いで「遠くへ出かけよう」が14.5%であった(図6)。男女別においても同様の傾向であった。「出会いの集い、お互いをよく知ろう」「地域と交流しよう」「特になし」が4.8%と少なく、男女別にみると女性は同様の結果であったが、男性は「出会いの集い」「料理を作ろう」「特になし」が、それぞれ4.1%と少なかった。

一番心に残った活動として、「やまびこタイム」があるが、これは、4泊5日以内の宿泊体験活動の夕食後から就寝までの時間に設定され、利用児童生徒の自主的な活動を促すことをねらいとしている。この活動の中で、子どもたちは、ともに入浴をしたり、自主学习や読書をしたり、卓球やビリヤード、トランプやボードゲーム等をしたりして、夜の一時を過ごしている。

「夜、寝る前に家族のようにトランプをしたり、テレビを見たり、遅くまでゆったりとした楽しい時間が過ごせた」、「嫌われてきた自分を他の人と同じように接してくれた」、「お風呂でゆっくりと話をした」、「部屋でたくさん話をして、笑って泣いて大切な友だちができた」等の記述からも、この「やまびこタイム」の意義を見出すことができる。この意義は、やはり宿泊を伴うからこそ作り出されるものであると言える。すなわち、入浴を含め、寝食をともにすることにより、親近感や安心感、楽しさがさらに高められるとともに、互いに相手を受け止められる関係の中で自分の思いや考えを素直に表現することができる時間として、一番心に残る活動として最も多い回答を得ているものと考えられる。

また、「遠くへ出かけよう」についても、多い回答数が得られている。これは、緊張と不安をもって始まった宿泊体験活動も、各活動や「やまびこタイム」を通じた仲間づくりを経て、集団としての高まりを実感できたからなのではないかと考えられる。

さらに、山登りやカッター実習、航海体験、スキーやスケートといった「遠くへ出かけよう」ならではの活動内容を通して、互いに励ましたり、助けたりすることにより自己有用感を実感できたことや、その活動を仲間とともにやり遂げたという成就感や達成感を共有できたことも、心に残る活動として挙げられる理由となっているのではないかと考えられる。

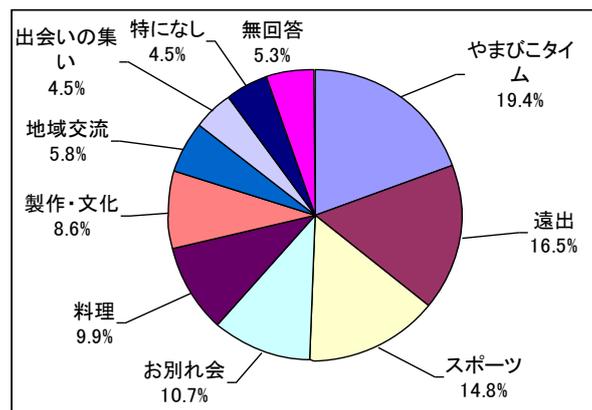


図6 一番心に残った活動 (n=199)

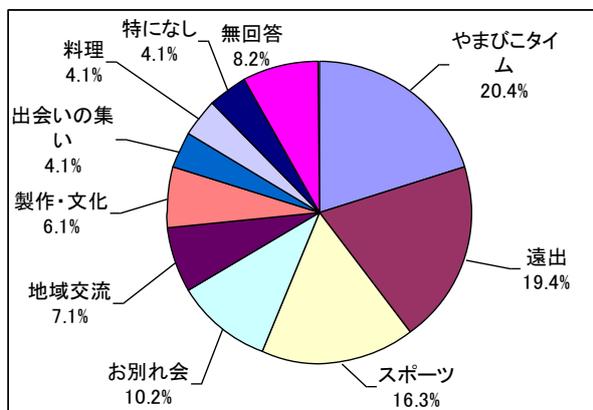


図7 一番心に残った活動(男性) (n=84)

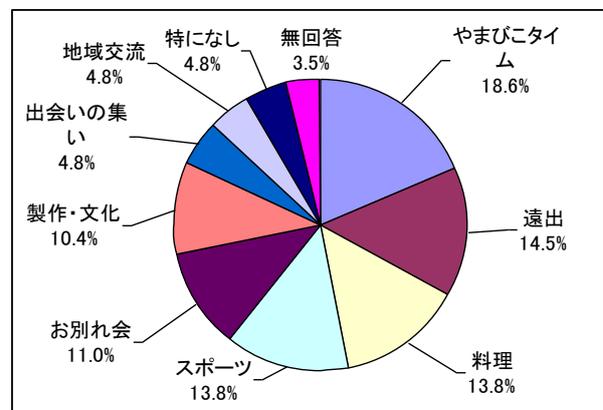


図8 一番心に残った活動(女性) (n=115)

(2) 一番印象に残っていることについて

一番印象に残っていることについての自由記述の内容を、「人間関係に関するもの」「施設に関するもの」「活動に関するもの」「その他」「無回答」の5つに分類した。そのうち、「活動に関するもの」は、野球など屋外で行われた活動を「屋外での活動」、トランプなど室内で行われた活動を「室内での活動」に分けた。

5項目のうち最も記述が多かったのは、「活動に関するもの」の198人で、その中でも「室内での活動」について言及する数が106人と一番多かった。5項目のうち2番目に記述が多かったのは、「人間関係に関するもの」の92人で、そのうち「友だち」について言及する数が40人と一番多かった。

こうした結果は、当所が掲げている「体を動かすと心も動く」という考え方と大きく関係している。「時間をもてあますことなく、何かしていられた。誘ってもらえた」「自分一人で出来ないことを助けてもらった」「何かしている時より、そこにいることが楽しかった」といった記述からも、各活動を通して体を動かすことにより、心が動き(解放され)、結果として人間関係づくり(友だちづくり)にも結びつき、その場にいることの心地よさを実感していると言える。

また、「周りにいる皆が味方だと思えた」「集団の中で個を意識した」「人とかかわることから逃げないこと」といった記述からは、集団活動を通して、自分自身を集団と相対化させてとらえようとしている姿を読み取ることができ、そのことが本人の自立を促しているのではないかと考えられる。

表1 但馬やまびこの郷で一番印象に残ったこと (n=199)

カテゴリー	内容	人数	合計
人間関係に関するもの	友だち	40	92
	スタッフ・ボランティアの人々	33	
	地域の人々	4	
	その他の人々	15	
施設に関するもの	お風呂が温泉	3	13
	ご飯がおいしい	7	
	お弁当がおいしい	1	
	施設がきれい	1	
	風呂に行くまでの道に虫が出そうで怖かった	1	
活動に関するもの	屋外での活動	92	198
	室内での活動	106	
その他	すべて	6	29
	ここにいて自分が楽しい	1	
	不安が和らいだ	1	
	けなされなかった	1	
	みんなが明るく元気だった	1	
	みんなで楽しもうという自分がいた	1	
	青春を感じた	1	
	笑ったこと	1	
	世界が広がった	1	
	誕生日を祝ってもらった	1	
	経験できないことができた	1	
	できないことへのチャレンジ	1	
	初めて会った人と一緒に寝た	1	
	人から逃げないことを学んだ	1	
	将来の目標を見つける	1	
	集団の中で個を意識した	1	
	スタッフとのいたずら(お風呂)	1	
	漫画の絵を描いてくれた	1	
	今の高校へのきっかけ	1	
	箱庭	1	
	発熱	1	
	一日で帰った	1	
	思い出したくない	1	
覚えていない	1		
無回答		31	31

表2 但馬やまびこの郷で一番印象に残ったこと（自由記述の主な内容）

年齢	性別	記述内容
26	男	周りにいる皆が味方だと思えた。
20	男	集団の中で「個」を意識した。
17	女	知らない者同士が、自分の悩みを尊重し、お互いを知ろうと頑張った。
24	男	何かしている時より、そこにいることが楽しかった。
19	女	誰にもけなされず、幸せだった。
18	女	嫌われてきた自分を、他の人と同じように接してくれた。初めての感情が生まれた。
18	女	自分だけではなく他にも苦しい思いをしている人がいることが分かった。
25	女	将来の目標が見つかった。
15	女	友だちの話を泣きながら聴き、自分も泣きながら聴いてもらい、スタッフが全力で考えてくれた。
18	女	お別れ会で自分でもビックリするくらい号泣した。
19	女	部屋でたくさん話をして、笑って泣いて大切な友だちができた。
23	女	夜、寝る前に家族のようにトランプをしたり、テレビを見たり、遅くまで話しゆったりとした楽しい時間が過ごせた。
22	女	食堂のおばちゃんたちが作ってくれたおいしい料理(家庭的)をもう一度食べたい。
28	男	お風呂(ゆったり温泉)でゆったり話をした。
19	女	自分一人で出来ないことを助けてもらった。
26	女	時間をもてあますことなく、何かしていられた。誘ってもらった。
19	男	不登校になると暗く引きこもるが、やまびこの郷では皆とても元気で明るく、協力し合い生活していた。
26	女	人と交流することについて学んだ。自然を見ると静かで心が落ち着いた。
20	女	自分は劣った人間ではない。皆「今」という時間を精一杯生きていることを知った。
27	女	魚釣りは何も考えず穏やかな時間だった。
19	女	素敵な仲間が出来たことことに感謝。
20	女	やまびこの郷には「壁」は存在しない。心から安心させてくれた。
23	女	一番落ち込んでいた時期なので、自分が決めたニックネームをみんなが呼んでくれ、何げないことが嬉しかった。少しのことでも「すごいな！」と感心してもらえた。
19	女	夜、寝る前のやまびこタイムではコタツに入ってテレビを見ながら遊び、話をしたことが楽しかった。
24	男	今まで話したことのない人と話した。人とかかわることから逃げないこと。
16	女	出来ないと思っていたことにチャレンジした。

(3) 一番安心できた人について

図9から、全体として、「友だちと一緒にいる時」が41.2%と最も多く、男女別でも同じ傾向が見られた。次いで「フレンドリーサポーター(大学生ボランティア)と一緒にいた時」が18.5%であった。

2番目に多い回答が、男女により異なっている。男性は「但馬やまびこの郷のスタッフと一緒にいた時」が22.9%、女性は「フレンドリーサポーター(大学生ボランティア)と一緒にいた時」が20.8%であった。

表2における自由記述の内容を見ても、「友だちの話を泣きながら聴き、自分も泣きながら聴いてもらい、スタッフが全力で考えてくれた」という記述があるように、当所における友だちの存在は大きいと言える。これは、日常生活において人とかかわる機会がほとんどない子どもたちが、当所での各活動で同世代の子とふれ合う中で、自分の思いを素直に出し合う関係を大切にしていることが分かる。

また、フレンドリーサポーターの存在も見逃せない大きな存在であることも分かった。

子どもたちとともに楽しみながら、子どもたちのよき兄姉としてメンタルフレンドの役割を果たしてくれており、子どもたちの素直な思いを上手く引き出してくれていることが、この回答結

果となっているものと考えられる。

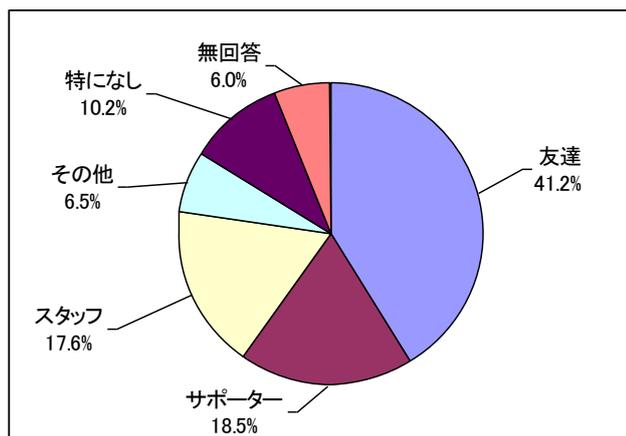


図9 一緒にいて安心できた人 (n=199)

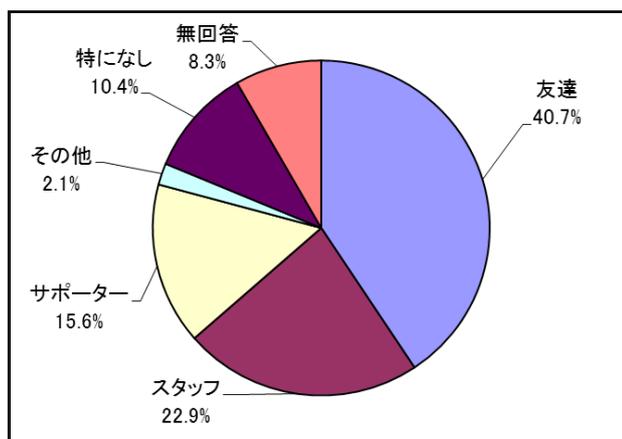


図10 一緒にいて安心できた人(男性) (n=84)

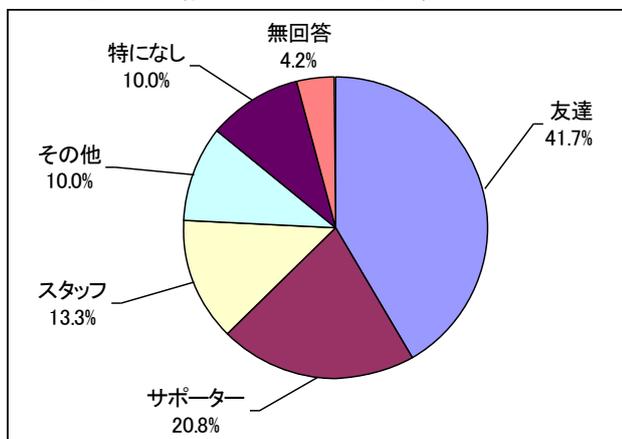


図11 一緒にいて安心できた人(女性) (n=115)

(4) 3回以上当所を利用した理由について

表3のように、自由記述の内容から「気持ちに関するもの」「人間関係に関するもの」「活動に関するもの」「その他」「無回答」の5つに分類した。また、「人間関係に関するもの」においては、「友だち」「スタッフ」「全体」の3つに分けた。

「気持ちに関するもの」が57人で最も多く、その中でも「楽しかったし、次が楽しみになったから」という理由が11人で一番多かった。

次に「人間関係に関するもの」が46人で多く、その中でも「友だち」について言及する内容が29人で最も多かった。

表4にある自由記述の内容を見ると、「唯一の心の安らぎを感じる場所。それだけ普段は息苦しい毎日だった」「ここだと自分は本当の自分でいられる」「偽りなく笑え、とても楽しかったから」

等の記述があり、学校から離れ、家族ともつながれない中で、孤独感や疎外感、いらだちや不安、虚無感等に押しつぶされそうになる日常から離れ、当所での生活を通して、当所が安心して過ごせる（甘えられる）場所、自分を見つめられる場所であったことが推察される。こうしたことは、当所の立地条件、寝食をともにしながら築く人間関係があればこそ得られることである。

当所の立地条件に関しては、当所が広々とした田畑や点在する民家等の風景が見渡せる小高い場所に建っていることや、山や空の美しさや空気のおいしさ、鳥の声等の自然の豊かさについて言及し、「周囲の目を全く気にしなくてすんだ」「のびのびと過ごせた」「リフレッシュ（気分転換）できた」といった記述があり、日常生活の場から遠く離れ、自然の中でゆったりと過ごし、解放感を味わうことにより、元気になれたことを実感している様子がよく分かった。

また、人間関係に関しては、「同じ境遇の人と話せた(遊んだ)」「新しい友だちができた」「遠隔地の友人と出会える場所だから」等、友だちができることやつながりを大切にするために当所を利用したこと、「相談に乗ってもらった」「自分を受け入れてくれる所だった」等、ゆったりとした時間の中で、スタッフと話してふれ合えたことについての記述も多かった。人と楽しくつきあえる自分や自分にきちんとかかわってくれる人の存在を実感したことが3回以上くり返し利用することに結びついていると考えられる。

表3 但馬やまびこの郷を3回以上利用した理由について (n=79)

カテゴリー	内容	人数	合計		
気持ちに関するもの	また行きたいと思ったから	5			
	自由でのびのびできたから	2			
	自由を取り戻せたから	1			
	気分転換	5			
	自然の中で過ごすと思いが少なくなったから	1			
	本当の自分でいられたから	2			
	ストレス発散できたから	2			
	日常から離れられるから	9			
	自分が成長できと思ったから	1			
	明るくなりたくなったから	1			
	気持ちが楽になったから	1			
	自分を見つめ直せるから	1			
	受け入れてくれるから	2			
	唯一の救いの場所だったから	3			
	嫌なことを忘れられたから	1			
	褒めてもらえたから	1			
	道が切り開けそうだったから	1			
	甘えられるから	1			
	気持ちの変化が前回にあったから	1			
	自分の居場所だと思ったから	1			
	自分が変わるきっかけとなるから	1			
	勇気が出たから	1			
	安心感があるから	1			
	1回目から自信が湧いたから	1			
	楽しかったし、次が楽しみになったから	11	57		
	人間関係に関するもの	・友だち	同世代の子と話せるから	3	
			友だちが(たくさん)いたから	3	
やまびこの友だちと行く約束をしていたから			1		
友だちができたから			8		
友だち作りのため			5		
友だちとの思い出作りのため			1		
みんなといて楽しかったから			1		
・スタッフ		同じ境遇の人と話せた(遊んだ)から	7		
		スタッフに会いたいから	6		
		スタッフとのふれ合いたいから	4		
		スタッフの援助がよかったから	1		
・全体		スタッフの印象がよかったから	1		
		学校の先生よりよかったから	1		
		相談に乗ってもらったから	1		
		気を遣わないで楽しめたから	1		
活動に関するもの	いろいろな経験ができたから	1			
	いろいろな人とかかわれるから	1			
	学校以外の人とかかわりが欲しかったから	1	46		
その他	普段できないことができたから	6			
	さまざまな昆虫を観察するため	2			
	地域やまびこ教室も含めて利用した	1			
	適応教室と同じような活動だったから	2	12		
	教育センターなどから紹介されたから	3			
	保護者が時間を作ってくれたから	1			
	自然がいっぱいあったから(田舎のよさ)	4			
	不登校のため	4			
	周りの勧め	1			
	高校に行くのに役立った	1			
やまびこの郷を知りたかったから	1				
学校の出席がもらえたから	1	16			
無回答		10	10		

表4 3回以上くり返して利用した理由(自由記述の主な内容)

年齢	性別	記述内容
22	男	自分が変わりがかったから。
26	男	唯一の心の安らぎを感じる所。それだけ普段は息苦しい毎日だった。
19	女	ゆっくりとした時間が好きだった。
18	女	同世代の子と話せるのがやまびこだけだった。
15	男	自然の中で過ごすと思いが少なくなった。
17	女	ここだと自分は素でいられる。家にいると体も動かさないし、人との会話もない。
18	女	家にずっといるといろいろなことを考え過ぎたり、周りの目が気になってストレス

		があったのでリフレッシュのために利用していた。 何でも話すことができるという安心感があった。
27	男	自分を受け入れてくれるところだった。
17	男	家から離れることができた。
19	女	学校から離れたいもの家の家にも先生が来るなど、学校からの催促が絶えず、両親も行かさなければと力が入っていて、家も落ち着けなかったので、一応学校に行く方に向いているように見え、自分の顔を知っている人たちから離れられるから。
16	男	元気に活動でき、ストレス発散でき、ひどい鬱にならずにすんだ。
15	女	煮詰まってきたのを感じたときに、それを一掃するため。
19	女	親に頼らず行動することができ、周りの人の目も気にせず自由に行動できたから。
22	女	自分自身のこれから先に何か道が切り開けていけそうと思った。全く知らない人と友達になれ輪が広がったと思った。
16	男	友達づくり。(保護者) 家族の者が各自の時間を少しつくりたかった。
18	男	家で引きこもる生活が多くなったから。
18	男	本当の自分でいられたから。
18	女	やまびこの郷に行くと勇気が出た。
20	女	偽り無く笑え、とても楽しかったから。家から離れられたから。
17	女	学校に行けないので、学校以外の人との交流が欲しかった。
22	男	1週間だけは普段の生活から離れ、「学校へ行かなければいけない」という縛りから解放されるため。家に帰ってから、少し頑張ってみようという気になった。
21	男	やまびこに行くまでは学校と一切交流がなく、家でずっと引きこもっているという孤独感でいっぱいでした。一日一日が活気なく、適当に時間だけが過ぎていく日々でした。
18	男	気持ちが楽になり、もう一度行きたいと思った。母の死後(中3の時)寂しさがこみ上げてくるたびに、やまびこのことを思いだした。生活をする上でなくてはならないものだった。
22	男	日常から離れられるから。遠隔地の友人と出会える場所だから。

(5) 当所での活動や働きかけなどへの要望

表5のように、自由記述の内容を「かかわりに関するもの」「サポートに関するもの」「但馬やまびこの郷での生活に関するもの」「活動に関するもの」「その他」「特になし(希望以外の回答を含む)」「無回答」の7つに分類した。

「活動に関するもの」が23人で最も記述が多く、その中でも「室内での活動」について言及する内容が8人と多かった。具体的な内容については、漢字クイズや理科の実験など知識がつくような学習の時間や語らいの時間などを設ける要望があった。

「サポートに関するもの」「但馬やまびこの郷での生活に関するもの」「その他」が各8人であった。

記述内容から、「夜、不安になった時、悩みを聴いてくれる部屋があればよかった」「夜、時間を延ばしても語らう時間がほしかった」など、夜の過ごし方についての要望が多かった。これは、前述した「やまびこタイム」の効果を踏まえても理解できる要望であり、当所での生活のどの場面においても、自分の気持ちを聴いてほしい、あるいは他の子と話がしたいという思いの表れではないかととらえられる。

またその一方で、学習や生活上の規律、個々が抱える課題への挑戦等、現実的な課題への対応を求める記述もあり、子どもたちを受け止めるだけでなく、課題についてともに考え、ともに取り組むことの大切さに気づかせてくれる。

こうしたことから、当所が子どもたちへの対応において掲げている「聴く、待つ、寄り添う、合わせる、教える、ほめる」の実践がまさに求められていると言える。

表5 当時あればよかったと思う活動等について (n=209)

カテゴリー	内容	人数	合計
かかわりに関するもの	スタッフとのかかわり	2	
	他の人とのかかわり	5	
	一人一人へのかかわり	4	7
サポートに関するもの	個人へのサポート	6	
	時間外の相談	1	
	但馬やまびこの郷の継続的なサポート	1	8
但馬やまびこの郷での生活に関するもの	滞在期間の延長	3	
	いつの活動時間を長くしてほしい	2	
	ルールについて	3	8
活動に関するもの	自然体験	6	
	外出での活動	2	
	室内での活動	8	
	OB・OG会	2	
	その他の活動	5	23
その他	自分探しの時間	2	
	但馬やまびこの郷の存在をアピールす	4	
	学校の先生の理解	2	8
特になし(希望以外の回答含む)		42	42
無回答		139	139

表6 当時あればよかったと思う活動等について (自由記述の主な内容)

年齢	性別	記述内容
20	男	社会の厳しさと、行動による可能性について。
17	女	夜、不安になった時、悩みを聴いてくれる部屋。
21	女	自主性の求め方。
26	男	日常の挨拶を皆で交わす。
24	女	学習の時間。
23	男	学校に戻るより、行かなくていいと言われる方がうれしい。一人一人思いは違う。
25	女	個々の課題に向かわせる。
24	男	多くの人と協力して何かをする。
23	女	長期体験。
18	女	夜、語らう時間。
22	男	夜食。
20	女	カウンセリング。全てを肯定、受け入れる。
27	女	時間の使い方。(家)
18	女	社会に出ても継続的な働きかけのシステム。将来の事。
21	男	携帯規制。
21	女	個人の才能を生かす活動。
15	男	「やまびこフェスタ」夏休み開催。

3 当所の利用の記憶の程度について

当所の利用について、「よく覚えている」は39.2%、「覚えている」は31.1%、「おぼろげながら覚えている」は24.9%であり、全体として約95%が当所を何らかの形で覚えていると回答している。

ただ、利用回数と当所利用の記憶の程度との関連については、今回の結果から、両者間に関連性は見られなかった。すなわち、利用回数が多いから当時のことをよく覚えているとか、利用回数が少ないから覚えていないということではない。

利用の記憶の程度がどのようなことと関係しているかということ、やはり「友だち」であると考えられる。

「一番印象に残ったこと」や「一番安心できた人」において共通する記述内容として、友だちに関することが最も多いことは前述のとおりである。また、「当所利用の記憶の程度」と「一番安心できた人」の2項目と「現在の外出状況」に関連性が見られ(表13)、残差分析の結果から、「準ひきこもり群」と「ひきこもり群」に比べ、「通常群」に当所を利用したことをよく覚えている者が多く、一番安心できた人として「友だち」と挙げている者が多かったからである。

こうしたことから、友だちの存在や友だちとともに過ごした自分の存在が、大きく記憶に反映していると考えられるとともに、それが現在の外出状況（通常群）との間に何らかの関係があるのではないかと考えられる。

ただ、こうした関係性には、スタッフとの関係、さらに活動やふれ合いを通じた自分の気持ちの変化やそこで実感したことが、当所利用の記憶の程度に影響していることも考慮しておく必要がある。

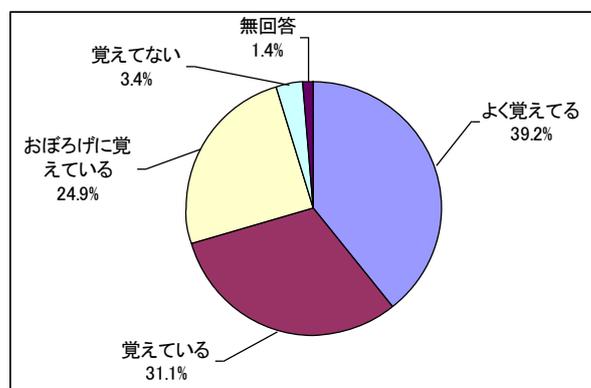


図 12 当所の利用の記憶の程度 (n=209)

4 当所での体験を通じて、当時、自分が変わったと感じたことについて

図 13 のように、全体として、「興味・関心が広がった」が 87 人、「緊張や不安が和らいだ」が 67 人、「他の子ども（友だち）と一緒に遊ぶようになった」が 49 人の順に多かった。これは男女別にも同様の順位であった。

最も人数が少ない変化は、男性においては、「ゲームやインターネットを長時間しなくなった」が 3 人、女性では「家族と一緒に食事ができるようになった」が 2 人であった。

「興味・関心が広がった」「緊張や不安が和らいだ」「他の子ども（友だち）と一緒に遊ぶようになった」が多いことについては、人とかかわる機会がない普段の生活から離れ、当所での活動を通してスタッフや他の子どもとかわりながら、「自分だけじゃない」「ここでは受け入れてくれている」という安心感を実感する中で、ゆったりとした時間の中で自分自身をもう一度見つめ直した結果であると考えられる。すなわち、ありのままを受け入れてくれたり、ほめられたり、認められたりすることを通して、普段の緊張と不安の緩和を実感するとともに、自分の長所や得意なことを見出し、「一緒にがんばろう」とする意欲を高めているのではないかと考えられるからである。

さらに、「将来のことを考えられるようになった」や「これからのことに希望が持てるようになった」、「学習や進学に関心が高まった」の 3 項目を「自分の将来を考えようとする意欲」としてまとめると、最も多い回答数となり、当所における様々なかかわりが、子どもたちの考えをポジティブなものに変えている実態を読み取ることもできる。

こうした変化については、当所利用回数とも関連が見られ（表 7）、残差分析の結果からも、3 回以上利用した者に「変化あり」と回答した者が多く、1~2 回利用した者に「変化なし」と回答した者が多かった。

中でも、「不安や緊張が和らいだ」「笑顔が出るようになったと言われるようになった」「自分の感情が表現できるようになった」「自分に自信が持てるようになった」「主体的に活動できるようになった」、「あいさつや会話などができるようになった」「家族と会話ができるようになった」「学習や進学に関心が高まった」「特になし」の 9 項目に関連性が見られた。

すなわち、利用を重ねることにより、不安や緊張が和らぎ、笑顔が出たり感情が表現できたり、馴染みある人とのかわりを通して感情のコントロールができようになりたりしていると考えられる。このことは、活動を通してソーシャルスキルを学ぶことにより、主体的に活動することがで

きるようになり、それが自信となってあいさつや会話といった人とのつながり（コミュニケーション）に結びついているものと考えられる。このことは、前述の「3回以上利用した理由」において、自分の気持ちの変化や対人関係を結ぶことができたことを理由とする記述が多かったこととも関連していると言える。

また、こうした変化は、現在の外出状況との関連も見られ（表13）、残差分析の結果からも、「通常群」においては「変化あり」と回答した者が多く、「準ひきこもり群」と「ひきこもり群」においては「変化なし」と回答した者が多かった。このことから、「通常群」の方が当所を利用したことにより「変化した」と感じている者が多いといえる。

興味深い関連として、「笑顔が出るようになったと言われるようになった」という変化と性差との間において関連性が見られることであり（表8）、女性よりも男性にその変化が見られることである。このことは、「緊張や不安の低減」が影響していると考えられるが、具体的にどのようなことと関係しているのか検討する必要がある。

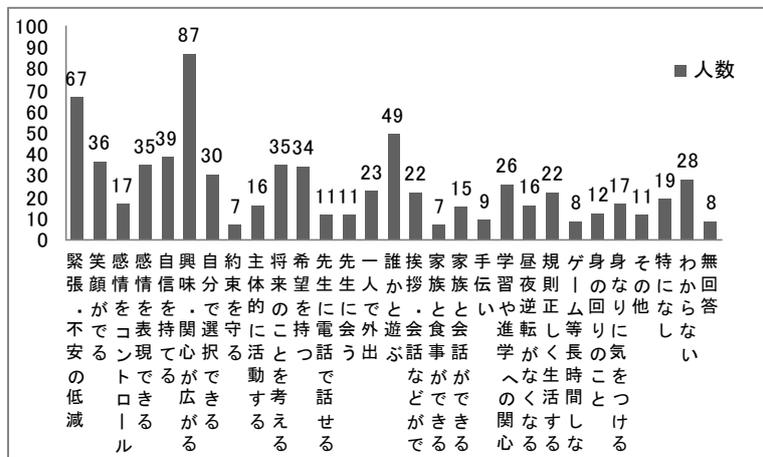


図13 但馬やまびこの郷を利用しての変化 (n=209)

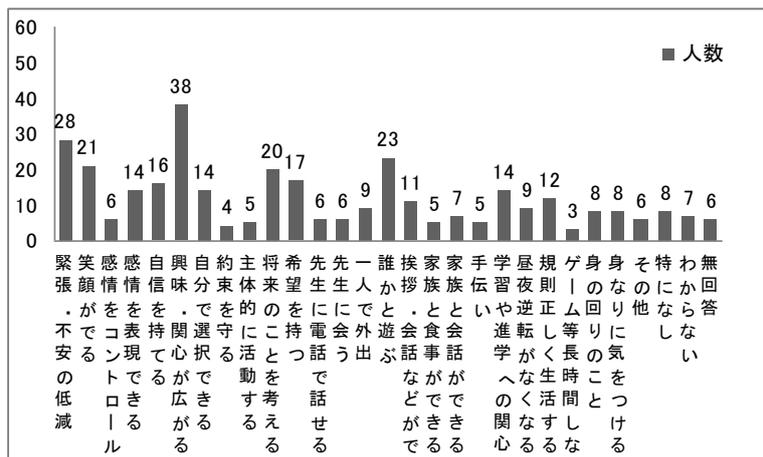


図14 但馬やまびこの郷を利用しての変化(男性) (n=90)

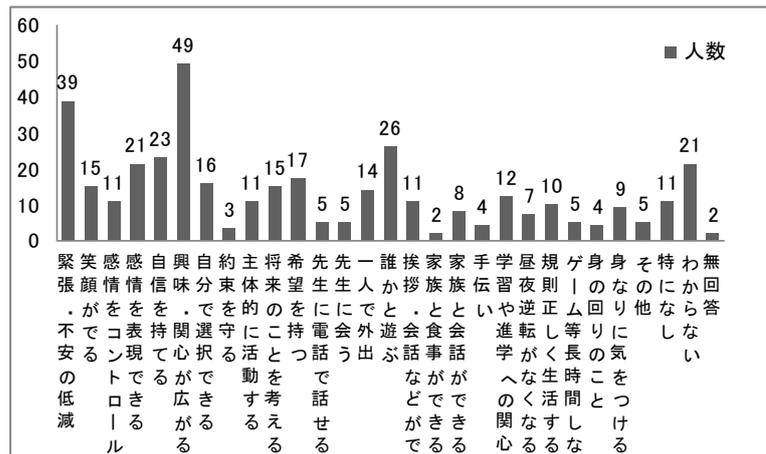


図 15 但馬やまびこの郷を利用しての変化(女性) (n=119)

表 7 但馬やまびこの郷の体験による変化 (n=205)

質問項目	内容	χ ² 値	自由度	検定結果	CramerのV係数	選択項目	調整済み残差		
							1~2回	3回以上	覚えていない
但馬やまびこの郷の体験による変化	「不安や緊張が和らいだ」	10.833	2	**	0.230	変化あり	-2.7	3.1	-1.4
						変化なし	2.7	-3.1	1.4
	「笑顔が出るようになったといわれるようになった」	7.715	2	*	0.194	変化あり	-2.8	2.7	0.4
						変化なし	2.8	-2.7	-0.4
	「感情をコントロールできるようになった」	11.317	2	**	0.235	変化あり	-3.2	3.4	-0.6
						変化なし	3.2	-3.4	0.6
	「自分の感情が表現できるようになった」	8.569	2	*	0.204	変化あり	-2.6	2.9	-0.9
						変化なし	2.6	-2.9	0.9
	「自分に自信が持てるようになった」	11.138	2	**	0.233	変化あり	-3.0	3.3	-1.0
						変化なし	3.0	-3.3	1.0
	「主体的に活動できるようになった」	6.559	2	*	0.179	変化あり	-2.4	2.1	1.3
						変化なし	2.4	-2.1	-1.3
「あいさつや会話ができるようになった」	9.277	2	**	0.213	変化あり	-2.8	3.0	-0.7	
					変化なし	2.8	-3.0	0.7	
「家族と会話ができるようになった」	8.101	2	*	0.199	変化あり	-2.7	2.3	1.4	
					変化なし	2.7	-2.3	-1.4	
「学習や進学に関心が高まった」	9.024	2	*	0.210	変化あり	-3.0	2.8	0.8	
					変化なし	3.0	-2.8	-0.8	
「特になし」	13.613	2	***	0.258	変化あり	-3.3	3.6	-1.1	
					変化なし	3.3	-3.6	1.1	

表 8 性差と但馬やまびこの郷での体験を通した当時の変化との関連性 (n=205)

質問項目	内容	χ ² 値	自由度	検定結果	CramerのV係数	選択項目	調整済み残差	
							男性	女性
但馬やまびこの郷を利用しての変化	「笑顔が出るようになった」	4.813	1	*	0.153	変化あり	2.2	-2.2
						変化なし	-2.2	2.2

***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

5 当所での体験がその後の生活に役立ったかどうかについて

表 9～11 のように、回答項目の群の分類については、「大いに役立った」「役立った」「どちらかと言えば、役立った」を「役立った群」、「あまり役立たなかった」「役立たなかった」を「役立たなかった群」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない群」とした。

「役立った群」については、自由記述の内容を大きく「自分自身に関する事」と「他者との関係に関する事」との2つに分類し、そのそれぞれについて「生活や行動の変化」と「内面の変化」の2つに分類した。その中で、「他者との関係に関する事」における「生活や行動の変化」を言及する内容が最も多く、次いで、「自分自身に関する事」における「内面の変化」を言及する内容が多い。全体的に自分にとってプラスとなったという内容が多かった。

「役立たなかった群」については、「環境が合わない」「いつもの延長」などの記述があった。自分にとってプラスになったことについて記述されていない。

「どちらとも言えない群」については、「よい意見」と「その他」の2つに分類した。その結果「覚えていない」が 8 人で全体的に一番多かった。「どちらとも言えない」と回答しながらも、自分にとってプラスになったこと、そうでないことの両方についての記述が多かった。

「役立った群」は、全体の 69.4%を占めており、当所の体験の有効性が十分にとらえられる結果となっている（図 16）。

その理由として、表 12 にあるように、「外出できるようになった」「会話が改善され、人とふれあえるようになった」「苦しんでいるのは自分だけではないと思った」「視野が広がり、前向きに考えられるようになった」等が挙げられており、当時の活動そのものよりも、活動を通して得られたことに対する「意味づけ」が行われていることが分かる。

特に、「閉ざされた心が開く鍵となった」「考え方を少し変えるだけで、こんなにも自分が変わるとは思わなかった」「考え方も行動もすべて変わった。ポジティブな考え方になって気持ちが明るいと、次々と良いことがやってきて成長できた」等、当所の利用を通じた自分の考え方の変容に関する記述が目立った。このことは、当所における宿泊体験活動プログラムが、4泊5日をかけて、「個」から「小集団」、「小集団」から「大集団」へと、活動状況や自分自身のペースに合わせて人間関係の輪を広げられる要素を有しているためであると言える。

また、「泊まることで、親が近くにいるわけではなく、自分一人でやっていかなければならない。その中で、自分というものを見つけることができる」「自分を見つめ直させた時間でした」「知らない相手に自分を伝える。また相手を知ろうとすることで、自分で気づいていなかった自分に気づけた」「自分の良い部分や悪い部分、周りのことが見えるようになった」等の記述に代表されるように、宿泊を伴う5日間の集団生活を通して、「個」について意識できた結果によるものと言える。集団の中にとけ込んでしまっている自分、集団の中で自分らしさを感じている自分、周りにかかわろうとする自分、あえて集団から離れて一人で過ごそうとする自分など、「集団」と「個」との間を常に行き来することによって生じた結果であり、これはまさに「やまびこでしかできなかった」という記述の通り、「但馬やまびこの郷」という場があることの重要性として受け止めることができる。

一方、表 10 のように、「役立たなかった群」については、その理由として、「活動に参加できなかった」「環境が合わない」「遊んでいるだけのように思えたから」といった記述があり、不登校であるからといって、誰でも当所の環境や生活が合うわけではなく、やはり当所を利用するに当たっては、本人の状況の把握、学校等との情報共有等が必要であろう。また、「現実とのギャップを感じたから」という記述にあるような退所後の現実（家庭）とのギャップの軽減に向けた取組、一般的な規範やマナーに係わる注意や助言の在り方等、「受容」と「指導」のバランスを図ることが求められている結果となっている。

「どちらとも言えない群」では、「覚えていない」「変化なし」といった記述が見られる一方で、「安心感が持てた」「よい体験ができた」等の記述が見られた（表 11）。

「その後の生活に役立っているか」と現在の外出状況との間において関連性が見られ（表 13）、残差分析の結果からも、「役立った群」は「通常群」に多く、「役立たなかった群」は「ひきこもり群」に多かった。さらに、「どちらとも言えない群」は「準ひきこもり群」に多かった。

このことから、当所での体験が現在の外出状況に影響していると考えられ、「役立たなかった群」「どちらとも言えない群」にとって、どのような活動がプラスの体験となるのか、実際にどのようなことを望んでいたのかについて明確にすることにより、利用児童生徒への対応に活かしていく必要がある。

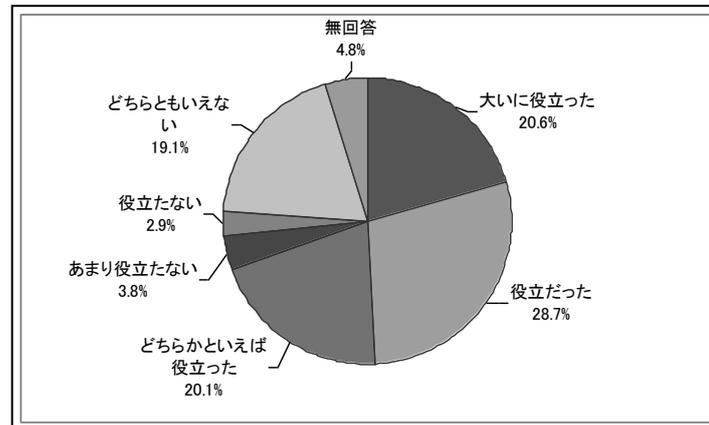


図 16 その後の生活へ役立ち度 (n=209)

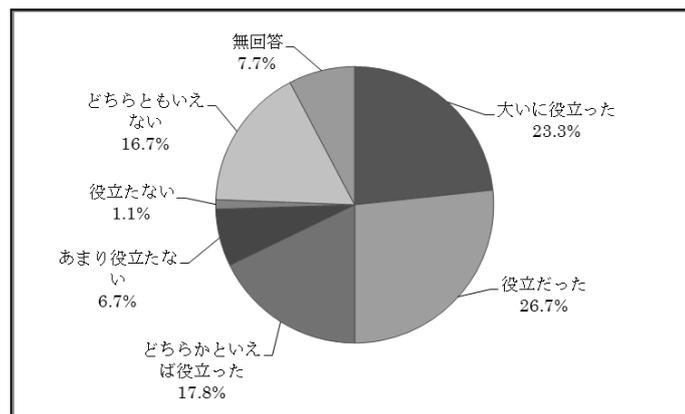


図 17 その後の生活への役立ち度(男性) (n=90)

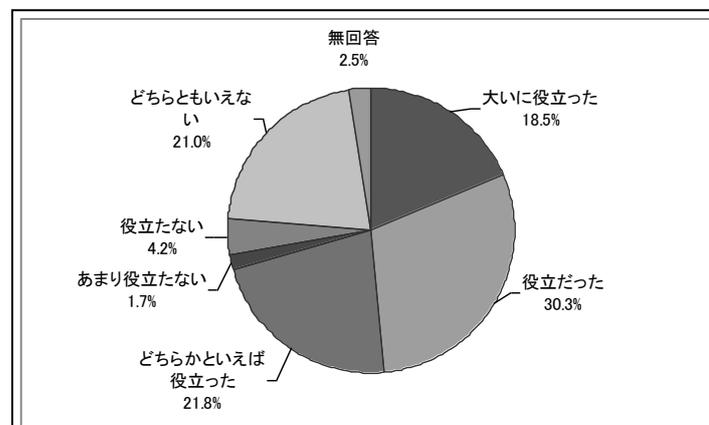


図 18 その後の生活への役立ち度(女性) (n=119)

表9 役立った群の記述内容 (n=152)

カテゴリー	内容	人数	合計	
自分自身に関すること 生活や行動の変化	身の回りのことができる	1		
	夜中にゲームをしなくなった	1		
	遠くへ出かけるようになった	1		
	規則正しい生活をするようになった	3		
	外出できるようになった	6	12	
	内面の変化	自分に自信が持てた	5	
		前向きに考えられるようになった	7	
		新しい環境に適応できるようになった	1	
		集中力がついた	1	
		新しい気持ちになった	1	
		心のゆとりができた(心が広くなった)	3	
		無理をしない	1	
		我慢できるようになった	2	
		自分の内面を知った	3	
		何かが和らいだ	1	
		「変わりたい」という意欲を持てた	3	
		精神的に成長した	3	
		興味や視野が広がった	15	
		夢や希望が持てた	2	
		明るく(活発に)なった	4	
素直になれた		1		
他人への恐怖がなくなった		3		
自分を認められるようになった		1		
あきらめなくなった		1		
短気でなくなった		1		
自分の小ささを知った	1			
大声で話して気持ちが楽になった	1			
静かにしなくてもよいことがわかった	1			
苦しんでいるのは自分だけではないと思った	6			
不登校を恥じなくなった	1			
わがままが言えた	1	70		
他者との関係に関すること 生活や行動の変化	友だちと仲良くなった	11		
	同じ悩みを持った子どもと出会えた	6		
	人とのふれあい	12		
	一緒に遊ぶなど、同世代との交流ができた	8		
	新しい出会い	5		
	集団生活の中で助け合ったこと	3		
	相談など、受け入れてくれた	2		
	あいさつができるようになった	1		
	家族と会話ができるようになった	1		
	他人と食事ができるようになった	1		
	家族に手を上げなくなった	1		
	協調して行動できるようになった	2		
	人の目を見て話せるようになった	1		
	人との会話が改善できた	9		
	初対面の人と緊張せずに話ができるようになった	4		
	コミュニケーションの仕方を学べた	2		
	集団行動できるようになった	2		
	人とかかわることができるようになった	4		
	自己表現ができるようになった	2		
	高校に通えるようになった	3		
高校や神出学園等での生活が送れるようになった	3			
学校に通えるようになった	2	85		
内面の変化	人に関心が持てるようになった	1		
	人の気持ちを理解できるようになった	1		
	勇気をくれた	1		
	人の優しさに触れた	1		
	気を遣うようになった	1		
	他人に優しくできるようになった	1		
	友人を大切にするようになった	1		
	転校して新しい学校に行きたいと思った	1		
	進学への意欲が高まった	1		
	登校が嫌ではなくなった	1	10	
但馬やまびこの郷での思い出に 関するもの	リフレッシュ、リラックス、息抜きができた(癒された)	5		
	非日常的な経験	4		
	学んだことのすべて	1		
	いろいろな経験ができた	2		
	運動できたこと	1		
	楽しかったこと	2		
	いろいろな場所を知ることができた	1		
	今の自分に必要だった	3		
	進む道をサポートしてくれた	1		
	当時に思い出すとほんわかした気持ち	1	21	
その他	よく覚えていない	5		
	現実とのギャップ	2		
	指導があまい	1		
	例外	2	10	
無回答		18	18	

表 10 役立たなかった群の記述内容 (n=14)

カテゴリー	内容	人数	合計
	1回だけだった	1	
	早起きできるようになったが持続しなかった	1	
	印象に残る体験できなかった	1	
	すぐ帰宅した	1	
	現実とのギャップ	1	
	指導員が過保護	1	
	環境が合わない	1	
	いつもの延長	1	
	遊んでいるだけ	1	
	活動に参加不可能	1	
	覚えていない	1	11
無回答		4	4

表 11 どちらとも言えない群の記述内容 (n=39)

カテゴリー	内容	人数	合計
よい意見	安心感が持てた	1	
	自信が持てた	1	
	家族と一緒にだったがスタッフとは交流で来た	1	
	他人と会話する訓練になった	1	
	自己表現・他者理解・自己への気づきできた	1	
	よい体験ができた	1	
	楽しかった	2	
	自分より大変な子がいることを知った	1	9
その他	覚えていない	8	
	その時は立ち直っていなかった	1	
	変化がない	4	
	比べられない	1	
	よくわからない	2	
	1回だけで、ほとんど参加していない	1	
	遊び感覚だったから	1	
	他人と交流できなかった(もともと友だちだった子以外はだめだった)	1	
	途中で帰った	1	
	適応指導教室の先生に勧められて参加しただけ	1	
	安定した精神状態であることがなかった	1	
	人に気を遣っていた	1	
	一時的な休息だった	1	24
	無回答		16

表 12 但馬やまびこの郷での体験がその後の生活に役立ったこと (自由記述の主な内容)

年齢	性別	記述内容
20	男	やまびこの郷での経験が直接的に自分の役に立ったとは思えない。結局中学生活でまともに復帰することはなかったし、卒業後もドロップアウトを繰り返した。今になって当時を思い出すとほんわかとした気持ちになる。
18	女	あの頃、年の近い人とかかわっていたのは、やまびこぐらいだったから。
16	男	規則正しい生活ができるようになった。
24	男	中学時代のあの時、あんな息抜きができなければ何も考えられないままだった。
23	女	地元から離れているので気持ちもリラックスできてよかった。
18	男	親に手を出さなくなったこと。
17	女	人と話すことが大好きになった。考え方も行動もすべて変わった。ポジティブな考え方になって気持ちが明るいと、次々に良いことがやってきて成長できた。
23	女	不登校を恥じることなく堂々と「不登校やった」と言えるようになった。
20	女	今は積極的に自分から話しかけたり、人との交流ができるようになった。
18	女	やまびこを利用している間は本当に楽しめているのですが、家に帰ると「現実」というものが待っていて、そのギャップにしんどくなるのが毎回ありました。
20	女	好きなことだけできないということが分かったから。
18	女	苦しんでいるのは自分だけではないと思うようになった。考え方を少し変えるだけで、こんなにも自分が変わると思いませんでした。
18	女	夜中にゲームをして遊ぶことがなくなったから。
19	女	今でも年賀状の行き来のある人ができた。
16	男	規則正しい生活をするようになり、進学への思いが高まった。以前より短気でなくなった。
18	女	様々な人と会うことや話すことで自分の良い部分や悪い部分周りのことなどが見えるようになった。
25	女	人の優しさに触れることができ、自分自身も実行できるようになった。
24	女	他人と食事ができるようになった。

27	男	集団生活をさせてもらえる場所を与えてもらったこと。
24	女	あの頃は365日あれば360日暗く変わり映えのしない毎日でした。心を明るくさせ、自分を見つめ直させた時間でした。
21	男	学んだすべてが今の自分になっている。
27	女	やまびこに行かなければ協調性というものをおそらく知らなかったと思う。
26	男	人との対話が上手くなり、人の気持ちと接し方を学んだ。
19	女	家に一日中こもっていることが多かった私が一人で外出することができるきっかけになったと思うから。
19	女	やまびこでの体験は自分の進む道をサポートして下さったように思います。
24	男	年上の人からのアドバイスが役に立った。
23	男	中学時代のすべてをひきこもりで過ごすことなく終わられた。人間関係を持てたので多少自信がついた。
23	女	他人に対する恐怖感が少なくなり、外出してみたいと思うようになったり、人と話してみたいと思うようになった。
22	女	人との話し方、何かしら気持ち的にも変わった気がします。
25	女	知らない相手に自分を伝える、また相手を知ろうとすることで自分で気付いていなかった自分に気付けた。
23	女	視野が広がった。
28	男	何日か一緒に行動するので小さなけんかもあったような気がしますが、そのことでより関係が深くなり、その友達とは今も交流が続いています。
20	女	当時としてはあまり自分の状態とやまびこの環境は合わなかったと思います。すべての方がやまびこから何かを得るというわけではないかも知れません。
19	女	人とのコミュニケーションの仕方や話し方を学びました。でもスタッフの方やボランティアの人が優しすぎて、現実から離れているような気がしました。
15	女	批判とか注意とかがなかった。「こういう行動は世間的にちょっと・・・」とか言ってくれたらいいなどは思っている。
26	女	団体行動が苦手な私にとって、接してくれるボランティアの方と密度の濃い時間を過ごせたことで何か閉ざされていた心が開く鍵になると思います。
22	女	長い期間安定した精神状態であることがなかったのです。
17	男	身の回りのことは自分でできるようになったし、やまびこの経験があったから寮に入れた。
22	男	家の外で起こる事に対してとても興味がわいてくるようになった。
16	女	普段できないことを体験して日常生活に役立てることができた。
20	女	学校にも家、親にも居場所を見いだせず、いじめから不登校になってしまった自分自身を嫌悪する日々でした。学校に復帰して欲しいという母や教師集団からの要求は当時の私にはあまりにも厳しいものでした。私はひとりじゃないと感じられたことは命をつなぎ止めることでもありました。
18	男	いろいろと親身になって相談に乗ってもらえました。
19	女	我慢することを覚えたし、気を遣えるようになった。
20	男	人は一人で生きているわけではないということ、自分の置かれている状況が最も悪いわけではなく、自分よりも大変な立場の人間がいる、だから自分はまだ大丈夫なんだと思えるようになったから。
20	女	しっかりと目を見て「あなたの話を私が聞くよ」「遠慮しないでね」と、優しい姿勢を見せてくれたから。
23	女	唯一わがママが言えた場所だったので。
22	男	生きる希望を持てた。
24	男	人とかかわることに慣れたいという反面、そのような機会があまりなかった。やまびこの郷は同じ悩みを持つ同世代の子ども達と出会える有意義な機会になったと思う。
21	男	泊まることで、親が近くにいるわけではなく、自分一人でやっていかなければならない。自分で考え、その中で友達ができたり、人間関係を築き上げ、自分というものを見つけることができる。それはやまびこでしかできなかった。
18	男	児童福祉の仕事をするという夢ができた。
17	女	高校に行けた。今とても幸せ。

6 小・中学校在籍時における当所以外の利用施設や機関について

当所以外の施設・機関の利用については、全体の約 88%が当所以外の施設・機関を利用している。

当所以外の利用施設や機関については、図 19 にあるように、「適応教室」が最も多く (25.4%)、次いで「教育センター、教育相談所など、公立の相談機関」であった (21.0%)。最も少なかったのが「保健所、保健センター」であった (1.5%)。こうした傾向は、男女別にみても同様であった。

このことから、各市町の適応教室や相談センターとの連携は、当所利用児童生徒の学校復帰に向けて不可欠なものであることが分かる。

また、現在の外出状況と当所以外の施設・機関の利用における「病院、診療所」との間で関連性が見られ (表 13)、残差分析の結果からも、「準ひきこもり群」に「病院、診療所」を利用した者が多く、「通常群」には少なかった。

このことから、学習やメンタル面の支援だけでなく、医療機関による支援を必要とする者が特に「準ひきこもり群」に多いことが示唆された。しかしながら、医療機関とのつながりが現在もあるのかなど、調査についての課題も残っている。

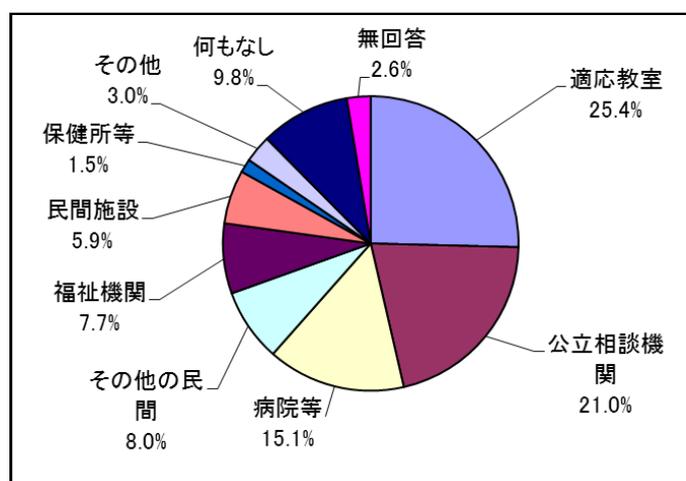


図 19 但馬やまびこの郷以外の施設利用 (n=209)

表 13 現在の外出状況と但馬やまびこの郷等との関連性 (n=205)

質問項目	内容	χ ² 値	自由度	検定結果	CramerのV係数	選択項目	調整済み残差		
							通常群	準ひきこもり	ひきこもり
但馬やまびこの郷を利用したことを覚えているか		18.171	6	**	0.211	よく覚えている	3.3	-2.8	-1.7
						覚えている	-2.4	1.3	3.0
						おぼろげに覚えている	-0.8	1.3	-1.2
						覚えていない	-1.0	1.2	-0.4
但馬やまびこの郷で一番安心できた人		16.366	8	*	0.200	友だち	2.7	-2.5	-0.9
						フレンドリーサポーター	-0.8	0.7	0.4
						但馬やまびこの郷のスタッフ	0.1	0.3	-0.9
						その他	-0.4	-0.1	1.5
						特になし	-3.2	3.0	1.0
但馬やまびこの郷を利用した変化	「特になし」	12.843	2	**	0.250	変化あり	3.0	-2.0	-2.8
						変化なし	-3.0	2.0	2.8
但馬やまびこの郷の体験がその後の生活に役立ったか		27.823	4	***	0.260	役に立ったと思う	3.6	-3.0	-2.3
						役に立たなかったと思う	-0.4	-0.9	3.5
						どちらともいえない	-3.8	3.9	0.3
但馬やまびこの郷以外の施設・機関を利用したか	「病院、診療所」	9.020	2	*	0.210	利用した	-3.0	2.7	1.2
						利用しなかった	3.0	-2.7	-1.2

*** : p<0.001, ** : p<0.01, * : p<0.05